

令和7年度オホーツク地域づくり連携会議（遠紋ブロック）議事概要

1 日 時：令和7年8月27日（水） 15：00～17：00

2 場 所：紋別市民会館 小ホール

3 出席者：別添名簿のとおり

4 議事概要

- （1）地域づくり推進ビジョン（地域重点プロジェクト）の進捗状況について
資料2により網走開発建設部芦澤次長（総務担当）が説明
- （2）オホーツク連携地域政策展開方針の推進状況について
資料3によりオホーツク総合振興局澤見地域創生部長が説明
- （3）意見交換
テーマ①『様々な業種における担い手の育成・確保』
テーマ②『外国人材の受入拡大を見据えた多文化共生の推進』

主な意見

【紋別市 山崎市長】

- ・紋別市においては、担い手の不足は待ったなしの状況。
- ・約40年前と比べると、農家の戸数、様々な事業所の数、担い手の数が半分となっており、倍となっているのは高齢者の数である。
- ・今年度から林業の人材確保として、新規参入定着者に対して、1人あたり20万円の支給をすることで人材確保を進めている。
- ・タクシードライバーが非常に不足しており、医療機関へ行く際の手段がなくなるという懸念から、現在、紋別自動車学校にて普通自動車二種免許の取得を可能にするための取組を進めている。
- ・医療分野については、看護学生に対して、修学資金制度による援助を行うなど、卒業後、市内に定着してもらえるような仕組みづくりをしている。
- ・医療の確保については、単独自治体での取組には限界があることから、北海道に対して自治医科大学出身者の派遣など、安定的な医療体制の構築を要望しているが、まだ実現には至っていない。
- ・役所においても、人手不足で困っている状況。国に対して自治体の負担が生じない仕組みづくりを求めている。
- ・異なる業種同士での担い手の取り合いが起こるという懸念もある。そのため、Uターン・Iターンなど、他の土地から紋別市に移住してもらえるような施策に取り組んでいるところ。
- ・紋別市内の「もんべつ国際交流ステーションすまいる」では、市役所職員のほか、複数の国の方々がスタッフとして働いており、外国人の悩みを聞いたり、日常生活における助言等を行っている。
- ・外国人を確保しないと、水産加工場をはじめ、多くの産業が成り立たなくなる。
- ・紋別市を気に入ってもらえる、選んでもらえるように取組を進めている。

【佐呂間町 武田町長】

- ・佐呂間町では、どの分野においても人材が不足している状況。
- ・土木・建設などの事業所向けにはなるが、大型特殊自動車免許の取得や事業所へ就職した後の資格取得に対して助成をする取組を過去から継続して実施している。
- ・介護福祉士を目指す学生等に対して、修学資金の貸付を行っている。条件を満たせば返還免除としているが、利用件数は少ない。
- ・産業後継者については、後継者になった後、免許取得などでお金がかかるといった声がある。このことから、農業、漁業、商業も含めて、産業後継者として新たに町内において産業に従事、経営する方に対して、一律 30 万円を支給することとしており、支給事例もある。
- ・佐呂間町においても、外国人が増えている状況。水産加工業者が多くを占めているが、大規模な法人の畑作や酪農、畜産、給食調理の事業所、土木建築などにも、外国人が入ってきている。
- ・外国人の数は、年間 50 人ずつ増えている。増えている要因としては、それぞれの事業所で宿舎を建設してきたことにあるのではないか。
- ・各事業所は、外国人労働者を引き留めることに苦勞している。
- ・外国人のための宿舎建設に向けた国の支援や、外国人との共生の中で自治体が負担する費用についてなど、国として外国人の就労、地域の維持について、今以上に真剣に考えていただきたい。

【遠軽町 佐々木町長】

- ・労働力不足は、日本の人口減少によるもの。この話をしっかりしていかなないと、対策を立てるといっても、市町村の中だけで進めては、労働力の取り合いになってしまう。
- ・道内でもオホーツクが一次産業において 1 番の優等生だと思っている。その中で遠軽町の役割として、一次産業を支えるための医療や教育は絶対になくてはならない。そのため、遠軽厚生病院を中心とした医療と遠軽高等学校での教育を担い手の育成・確保のためにしている。
- ・特に医療について、子どもを産めないところでは地方創生は進まないという考えから、産婦人科にこだわり続け、現在、遠軽厚生病院の産婦人科医は出張医を含めて 3 人体制にまで持ってきた。
- ・一次産業だけで頑張りは続けることは出来ない。産婦人科医師も含めた医療従事者の人材を確保していかなければならないと思っている。
- ・農業については、若い農家の方たちが動き出し、白滝の「えづらファーム」の取組などをきっかけに、新規就農が増えている。ただ、非常に厳しい状況であることに変わりはない。
- ・林業については、現在、従事者数が 57 名、5 カ年平均で 53 名程度。令和 2 年に開校した「北森カレッジ」や町内林業事業体の合同企業説明会の実施などの成果もあり、求人希望数を 100%は満たしていないものの、概ね横ばいの状況。今のところ、就業人口は他の業種に比べたら良いのかなという感覚を得ている。
- ・自衛隊員の確保についても非常に厳しい状況。去年の遠軽町の新人隊員は 0 人。原因は、新入隊員の配属先について、希望通りの配属にすることによるもの。募集をかけたところ、配属先の希望は、ほとんどが札幌で、都会と地方のギャップが凄くある。これは都会と地方との差が広がっていることの現れではないか。

【湧別町 因副町長】

- ・湧別町でも様々な業種において担い手や働き手の不足を実感している。
- ・福祉介護の分野については、東川町にある東川国際文化福祉専門学校に通う、介護福祉士の資格取得を目指す外国人留学生に対して、奨学金を給付するための協議会に参加して介護福祉士の採用に繋げている。
- ・農業については、離農者が多くいる中で次の担い手が家族内にいないという農家があり、農業施設自体が空いてしまうため、農協とも連携して受入体制を整え、就農に対して支援をしており、毎年複数名が移住して新規就農している。
- ・水産業についても、多くの外国人が担い手になってきている。数年前から問題で、町外からの働き手を募集すると、本州から応募があるが、住む場所が確保できないというものがある。空き家はあるが、すぐに用立てることが難しく、社員寮の建設に対して支援をしている。
- ・担い手不足もさることながら、湧別町へ来る働き手の住環境の整備が次の課題と捉えている。

【滝上町 清原町長】

- ・滝上町に来た方々が、家を建てるまたは家を改修整備することに対して、「ずっと住まいるたきのうえ！」支援制度を設けて補助をしているが、ある程度住む環境が整ったところでないと人は来ないのではと思っており、これは課題でもあり、検討の余地がある部分として認識している。
- ・育成・確保について、全国で、全道で、至る自治体で同じようなことを実施しており、このことについては、他の町をリスペクトした中でやらなければならない。
- ・移住・定住フェアや就労フェアなど、東京や札幌で開催されるイベントに、札幌や旭川、函館などが出展したら、その前には長蛇の列ができる。一方で、滝上町が出展しても来客は僅か。来る方が何を意識するのかというと、知名度や言葉、印象、そのようなイメージが大事だと痛感している。
- ・観光のPRも兼ねた上で、「オホーツク・滝上町」という言葉を強く発信する取組をしていかないといけない。それが今後の取組、展開の原理原則になっていくと考えている。
- ・外国人の受け入れ状況については、滝上町も農業、介護分野を中心に外国人の割合が3%近くになっている。
- ・一方で、言語、文化の違いから生活難の外国人の方がいたり、文化が違うことにより住みたくないという声を外国人の方から多く聞くようになっている。このことについては、調整する職員がいなかったり、キーマンがいなかったり、課題として認識しているものの、現状、まだ対策をしていない状況。仕事、生活の両面を支える仕組みづくりを今後していきたい。
- ・滝上町に関心を持ってもらい、滝上町のまちづくりや地域の産業に関わってくれる人材を確保するために、インターン制度の活用や各民間企業と協定を結ぶなど、いかに本町へ足を向けてもらうか、認知してもらうかという取組を現在進めており、今後も強化していこうと考えている。

【興部町 裕町長】

- ・かつて興部町内に800戸ほどあった農家が、現在、搾乳農家50数戸と10分の1以下になった。ただ、企業経営となり生産力は上がっている。
- ・漁業はホタテの養殖と鮭で何とか漁家件数を確保してきた。

- ・林業の場合は、機械化しなければならない。なかなか雇用産業として増えてこないというネックがあるが、これからの検討だと思う。ある程度減った段階で、どのように産業を構築していくかということをもう少し考えた方が良いのではと思う。
- ・興部町にある一番大きな牧場が、東京で採用試験をしたところ、一流大学の卒業生がたくさん来る。それは酪農体験という形での1、2年程度の雇用だが、途切れることはない。やり方1つで、方法は今後も生まれてくるのではないかと思う。新たな取組が興部町では少しずつ生まれているので、私はそれに期待したい。
- ・行政についていえば、機構改革をしても業務改革がなされない。業務量が変わらないまま、機構だけ変えても職員の負担だけが増えている。このことについて、行政自身も改革をしていかなければならない。
- ・役場の職員も少ない中で、どのようにやっていくのか。酪農がロボットを導入するように、行政もそのような取組をしていかないと、担い手不足という議論は収まらないのではないか。
- ・農業も漁業も外国人がいなかったら成り立たない。北海道の支援をいただき、宿泊施設を作ると安定的に外国人が来る。そのような前提で物事を進めて、産業を進めていくことで、生き残っていかなければならないと思う。

【西興部村 菊池村長】

- ・西興部村は、ここ10年で人口が大幅に減っている反面、高齢化率は上がっているのが現状。かつて西興部村で実施していた山村留学をやめたことにより、2つあった小学校の内、1つを閉校したことも、ひとつの要因であるのではないかと考えている。
- ・西興部村の基幹産業は酪農だが、他に福祉施設の分野、木材のギター工場と、3つに分けられるが、いずれも人口減少が進んでおり、この3つの分野で特に働き手が不足している。
- ・福祉については、条件を満たせば奨学金の返還を全額免除にしている。その他、就職していただければ、就職準備金として150万円を支援する制度を設けている。
- ・ギター工場についても、同じく就職準備金として150万円を支援している。
- ・特に福祉施設は人が足りなく、特養、それから障がい者施設、そしてケアハウスと3つある施設の内、特養だけでも毎年約7,000万円を単費で村の持ち出しで、その他の2つの施設も合わせて1億円以上を使って支援している。そうしないと赤字になってしまう。
- ・人の問題と公的な福祉施設の赤字の支援等について、北海道なり国なりで何かできないかと思う。
- ・外国人労働者について、10年前は酪農関係だけで10名しかいなかったが、現在は福祉施設、ギター工場も合わせて40名いる。
- ・日本語教育を何とかしていかなければならないのと、多国籍の方が入ってきていることから、行政としても通訳ができるような人も採用していかなければならないと思っている。
- ・地域からは外国人同士の交流会や地域住民と触れ合う機会を行政でつくってほしいという要望も出ている。

【雄武町 高橋町長】

- ・雄武町でも様々な業種において担い手が減っている状況。

- ・漁業について、以前は後継者がいないという理由で辞めるケースもあったが、現状では、スムーズに継承されている。ただ、漁船の乗組員や浜で作業をする方たちが非常に不足しており、外国人も入ってきてはいるがかなり厳しい状況。
- ・林業についても、高齢化が進み、担い手が不足している。
- ・医療についても、看護師不足が非常に大きな問題になっている。
- ・農業と水産加工業に関していうと、雄武町には 300 人超の外国人技能実習生がおり、雄武町の総人口約 4,000 人のうち 1 割弱が外国人という状況。
- ・町の発信力の強化と移住・定住に関して P R をしていかなければならないと思っている。
- ・農業に関しては、現在、網走開発建設部にて国営緊急農地再編整備事業、雄武丘陵地区の整備を進めていただいている。また、今後の農業の方向性としては、スマート農業などを推進していかなければならないのではと考えている。
- ・医療に関しては、民間の医療機関への助成措置や町内で新たに開業する開業医に対する助成制度を設けている。
- ・シカやクマを駆除するハンターも非常に不足をしており、狩猟免許の取得にかかる費用を昨年から助成しており、ハンター確保に努めている。
- ・水産業においては、外国人技能実習生の宿舍整備の要望に対して、助成制度を用意しているほか、人材組合に対して雄武町の水産加工場全体で支払う負担金約 6,000 万円のうち、3 分の 1 を町が単独で出している。
- ・外国人との交流については、地元のボランティア団体による日本語学習の支援者養成講座の開催しているほか、文化交流事業として「国際交流フェスティバル」を実施している。
- ・以前、地域おこし協力隊の観光支援員として採用し、4 年間働いていただいたベトナム人女性を今年度から町職員として採用し、観光や外国人との多文化共生の業務に就いていただいている。

【北見地方木材協会 江本会長】

- ・昨今の新聞において、建設費高騰、ライドシェアなどが話題に挙がっている。
- ・本日のテーマの①、②に関して、物価高・人件費の高騰と人手不足、その解消をどうにかすればいいのではないかと考えている。
- ・物価高については、我々が利用する自動車、重機、高性能林業機械の価格が非常に上がっている。木材の価格は相変わらず下がり続けている。
- ・燃料や修理費用も高くなっている。
- ・修理に関して、人手不足から長期的な時間がかかる。
- ・新規の機械購入についても、1 年以上待つこともある。補助金の手続きをしても、予定通り導入ができず、補助金を受けられないこともある。
- ・公共工事等の発注の際、事業費の見積もり額や様々な補助事業において、人件費や物価は確実に上がっている。我々事業体が存続できるように、皆様に協力をお願いしたい。
- ・人手不足に関しては、我々の企業では対応できる範囲を超えている。
- ・医療、教育、交通インフラなど、地方に比べると都市部の方が良い。
- ・外国人材に関して、当業界としても、もっと取り組んでいかなければと思っており、皆様には

支援をお願いしたい。

- ・北見地方木材協同組合連合会では、北海道木材産業協同組合連合会と連携、北海道森林管理局並びに北海道水産林務部の支援をいただきながら、昨年から全道の市町村長の皆様を対象に、公共建築物等の木造化を進めていただくためのキャラバンを実施している。昨年、オホーツク管内では置戸町と美幌町を回らせていただいた。
- ・本年度も道産木材を主体とした木材需要の拡大に努めてまいりたいと思っているので、皆様方のご理解、ご支援、ご協力をよろしくお願いしたい。

【北見管内漁業協同組合長会 加賀谷会長】

- ・近年、オホーツク海域において、特定技能実習生及び特定実習生の外国人材の受け入れが、非常に増えている。
- ・沙留漁業協同組合でも、冷凍工場で女性外国人労働者として32名が働いている。また、女性外国人労働者の悩みごと等の相談に乗ってもらうために、令和2年からインドネシア人女性を職員として1名採用している。
- ・良い環境で働いていただくため、令和4年に宿舍を新しく建設している。
- ・特定技能の人はいつ辞めるか分からない。せっかく仕事を覚えた途端に辞めていく。なかなか止めようがなく、本当に困っている。
- ・ホタテ漁について、以前は日本人の乗組員で十分に足りていたが、近年、乗組員を探すことが大変で、遠くは札幌からも来ていただいている。それでも乗組員を確保することができず、2年前から船に乗った経験のあるインドネシア人を特定技能実習生として採用しており、本年度も採用している。
- ・特定技能2号の資格を取って家族を呼びたいと思っている人が多くいるが、ハードルが高くなかなか実現ができない。もう少しハードルを下げ、使い勝手の良いように、制度の改正をしていただきたい。

【オホーツク観光連盟 長谷川副会長】

- ・人手が不足しているのは、どこの業種も同じだと思う。
- ・観光分野は他の業種に頼らなければならない部分がある。
- ・北海道に来てみたいと思う本州の方が多くいる。外国人観光客もコロナ禍明けから人が増えてきている状況。
- ・遠紋地域には良いものが多い。観光名所もあるが、食材という部分で非常に良いものがあると思う。
- ・東京へ行くと外国人労働者を見かけることが非常に多い。この地域も、同様な形に今後なっていかなければならないのではと思う。
- ・ライドシェアについては、今までNPOや自治体が運行主体だったが、そのうち3セクまで広げられることを検討されていることから、我々3セクも何か手伝いできればと思う。
- ・この魅力ある地域にお客様が少しでも来ていただけるよう、今後、それぞれの町と連携・協力しながら進めていければと思う。

○その他（１）、（２）

（１）資料５～７により、国の地方支分部局（北海道経済産業局、北海道運輸局、北海道財務局）から情報提供

（２）資料８により、網走開発建設部 谷江地域連携課長から情報提供

○閉会